

1. 活動の概要

平成 29 年 5 月 22 日 月曜日、松江市立八束学園小学部 6 年生教室で、6 年生（26 人、教職員 2 名）を対象に『心に残る文化財子ども塾』を開催しました。「古代の松江と埴輪作り」を主題として、松江市や、大根島、江島など八束町の縄文・弥生時代を学習することを通して、歴史学習への関心を高めることと、ミニチュアの埴輪づくりの体験を通して、古代の生活への理解を深めることをねらいとして実施しました。

初めに、校区内ということで、江島にある遺跡を紹介しました。縄文時代の遺跡 1 か所と古墳時代の遺跡 3 か所があることを紹介して、このうち、2 か所が古墳であることを説明して埴輪の使用された時代である古墳時代の遺跡であることを知ってもらいました。

そのあと古墳時代までの歴史の流れを概括的に解説していき、古墳時代まで終えたところで、埴輪そのものの解説を既存のスライドショー（パワーポイント）を使用して解説しました。埴輪の用途（古墳の周囲に並べられたもので、装飾や、呪術的な意味があったこと）、起源（弥生時代の壺と器台が起源であるという説があること）、種類（円筒埴輪、朝顔型、人物、動物、家、道具などの形象埴輪があること）、埴輪を観察することで、当時の風俗や、生活習慣、儀式の様子などがわかることなどを解説した後、粘土素材と紙やプラスチック素材の芯などで作るミニチュア埴輪の製作工程を説明して体験学習へと入っていきました。

教室を移動することなく、26 人それぞれの児童の机で粘土こね板、すりこぎ、へら、説明資料を置き、足元に水入れを用意して、素材粘土と紙芯、その他の道具を配布した後、粘土の切り分けから始めて、各工程を説明しながら実際の作業に入っていました。紙芯に巻きつける長方形の粘土板をすりこぎで伸ばして作っていくことが児童の皆さんかなり難しかったように見えてましたが、紙芯に巻きつけて成型する工程に入るとうまく製作が進むようになったように見えました。指先だけでなく、へらを使うことを指導しました。腕や飾りなど、貼り付けるだけでなく、つまみ出している人もいました。

2. 活動の様子



3. 子ども塾を終えて

1) 児童の皆さんから

- ・金属鏡や勾玉づくりがしてみたい。
- ・埴輪のある古墳都内古墳の違いが知りたい。
- ・古墳にはどのくらいの量の埴輪が必要なのだろうか？
- ・なぜ大量の埴輪がつくられたのか？
- ・島根県の遺跡から出土した遺物をいっぱい見てみたい。
- ・松江市や島根県の歴史を知ることによって自分のふるさとのことがよくわかり、これからの社会の学習などで見通しを持てる。今日学んだことをこれからの学習に生かしていきたい。
- ・(歴史の概説が)古墳時代までしか解説がないのが残念だった。戦国時代の話とか聞きたかった。
- ・古代出雲歴史博物館など博物館の展示品に興味があったのでぜひ見てみたい。
- ・インターネットを使って今日の勉強に関係あることをいろいろ調べてみたいと思った。

2) 担任の先生から

- ・ふるさと松江の古代の様子がわかった。
- ・児童が埴輪づくりを通じて体験的に学べた。
- ・座学の時、遺跡の名前や土器の名前だけでなく、写真や地図があるとわかりやすかった。

3) 埋蔵文化財調査センターから

写真やイラスト、図表などの量をもっと増やして説明することができたら、児童の皆さんの理解にも役立つし、時間の節約にもなったと思われ、反省しています。

ミニチュア埴輪づくりでは、周りの人の製作の様子などを参考にして、みんなで教えあい、さらに、ユニークな埴輪？いろいろな表情や装飾品をまとった埴輪ができていました。もっと埴輪らしい？ものを作ってもらえばよかったのでしょうか。

ミニチュア埴輪づくりを通して、児童の皆さんも知っている人も多い、勾玉や鑑鏡などが作りたいとか、ほかの考古遺物や、郷土の島根県や松江市の歴史そのものにも興味を広げてもらえたようなので、有意義な活動だったと思っています。